平成23年1月10日　川守り(かわも)新聞　第1号

川守り

発行人　香純
部　香優
部　阿
部　阿

まだまに合う！未来に残そう

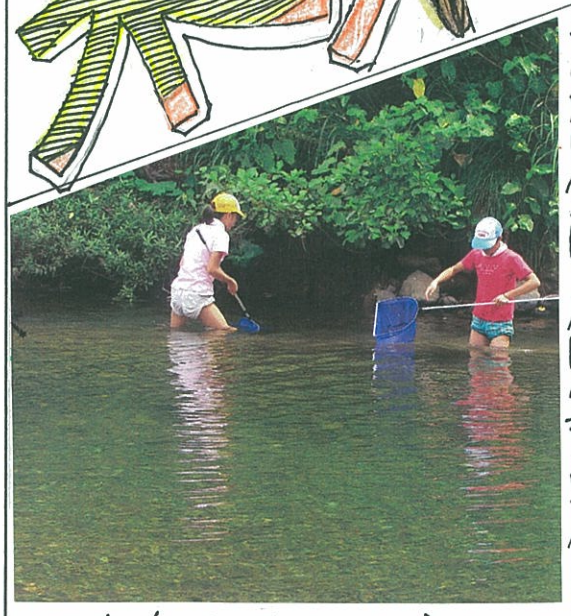
水をきれいにしよう

昨年、環境やECOをテーマにして「ちょ美ECO」新聞を製作した。作っていくうちに、環境に対する興味がわいて、自分たちで調べてみたいと思った。そこで、頭に浮かんだのが、私たちがよく遊ぶ、川だった。

実際に、夏に身近な一級河川の水質を、その川に住んでいる生物をもとに調査した。

一つの川を、上流、中流、下流の三つに分け、それぞれの場所ごとに、住んでいる生物で判断し、グラフにまとめた。

結果としては、少しきれいな川とわかったが、川の周りをみてみると、少しごみが落ちていることに気がついた。きっと、河川を利用したときのごみが、そのまま放置されていたのかもしれないが、そういうちょっとしたことを、利用した人みんなが気をつけていくことができれば、川に住む魚や他の生物たちが安心してくらせるような川になると思うので、私たちも気をつけたい。



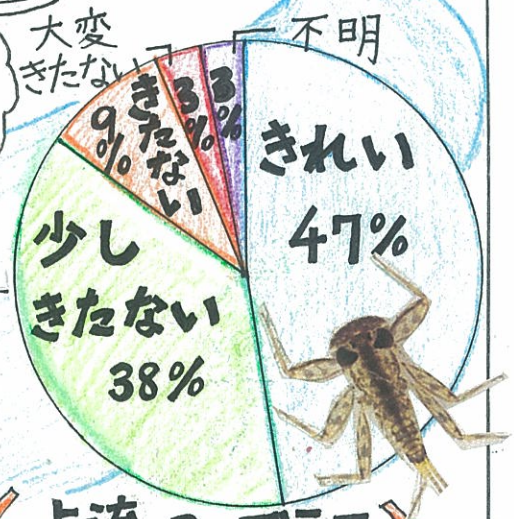
まとめ

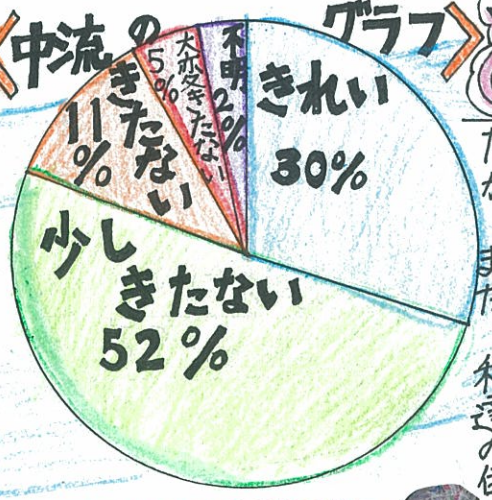
上流は、以外にも、少しきたない所に住む生物が多くてびっくりした。

中流は、市街地付近だからか、少しきたない所に住む生物が多くでした。

下流は、生物が少なかったため、グラフのような結果になったが、思っていたよりはきれいだった。

それぞれの三つの地点では、正しく調査できない所もあったが、まだ、私達の任





水と生活

川や海のよごれは、生活排水や、工場からの産業排水、農業排水などが原因だそうだ。

中でも、一番のよごれの原因は生活排水だ。ついうっかり流してしまいがちだが、みそ汁一杯を流すと川を元に戻すのにお風呂四・五杯分の水が、牛乳一杯には、お風呂十杯分の水が必要だそうだ。

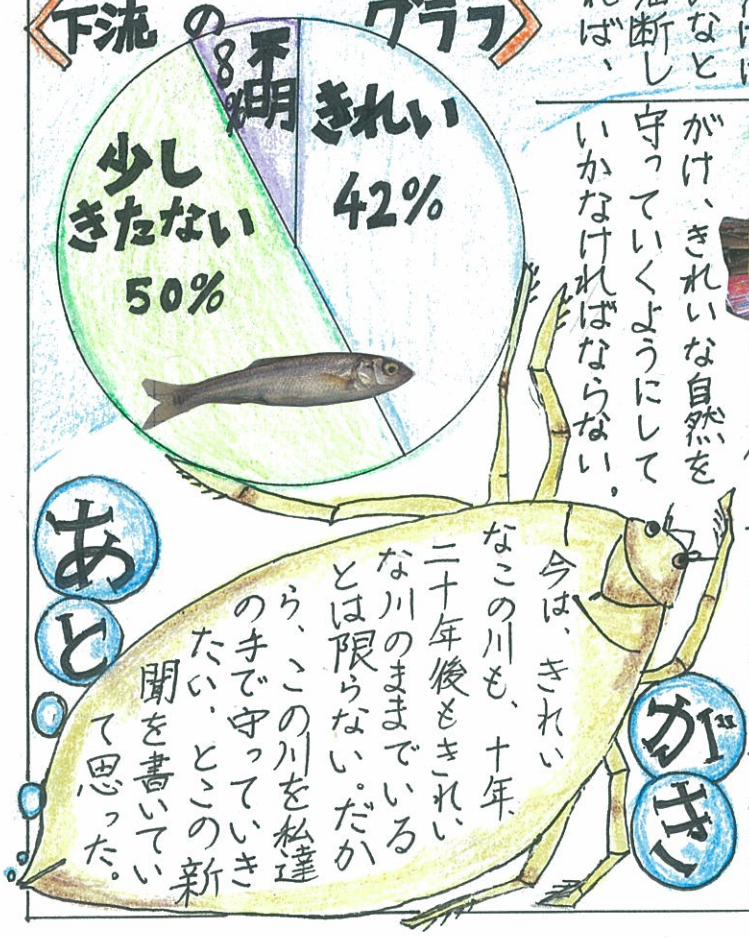
（海上保安庁の資料より）

できることリサイクル

川の調査をして気づいた、放置されていたごみ。そのごみを見ると、やっぱり、私達のできることは、少しでもいいからやらなくては、と思った。

私達のできそうな三Rのリサイクル。家にあったりサイクルできそうな物も、リサイクルセンターに持っていき、新しい物に変えてもらったり、資源にしてもらったりしている。

大きな川を守るには、とても小さな事だったかもしれないが、少しでも協力できてよかった。

あとがき

今は、きれいなこの川も、十年、二十年後もきれいな川のままでいるとは限らない。だから、今からでもおそくはないから、一人一人が「ECO」な生活をこころがけ、きれいな自然を守っていくようにしていかなければならない。